

鳥帽子会会報

2020年秋号 Vol.69



研究奨励賞授賞式

- 研修奨励賞論文抄録 4 p
- 教室紹介 10 p
- パニックマニュアル第7版 17 p
- 医学部同窓会諸表 18 p

福岡大学医学部同窓会

目 次

・会長挨拶	高木忠博	3
・研究奨励賞		
令和2年度研究奨励賞選考報告	安元佐和	4
令和2年度研究奨励賞受賞者名簿		5
令和2年度研究奨励賞受賞者		6
・令和2年度 受賞論文抄録		
Crohn's disease-specific mortality: a 30-year cohort study at a tertiary referral center in Japan (論文)	安川重義	7
Activation of overexpressed glucagon-like peptide-1 receptor attenuates prostate cancer growth by inhibiting cell cycle progression (論文)	重岡 徹	7
Osimertinib in Elderly Patients with Epidermal Growth Factor Receptor T790M-Positive Non-Small-Cell Lung Cancer Who Progressed During Prior Treatment:A Phase II Trial (論文)	中尾 明	8
・令和2年度研究奨励賞募集要項		8
・令和1年度 評議員会／在外研修援助金募集要項		9
・教室紹介		
腫瘍・血液・感染症内科学講座	高松 泰	10
内分泌・糖尿病内科学講座	川浪大治	11
心臓・血管内科学講座	志賀悠平	12
消化器内科学講座	平井郁仁	13
呼吸器内科学講座	藤田昌樹	14
脳神経内科学講座 ー地域の要としての脳神経内科を目指してー	合馬慎二	15
・学会報告		
第38回日本小児心身医学会学術集会 (Web開催) を主催して	永光 信一郎	16
・「当直医のためのパニックマニュアル第7版」書籍と電子ブック作成のご報告		17
・医学部同窓会諸表		18
・医局長・医長名簿		20
・教育職員人事／訃報／事務局からのご連絡／編集後記		21

同窓会ホームページ共通 ID、パスワード

ID : eboshikai
パスワード : fukudai1 (数字)



ホームページ用二次元
バーコード

パニックマニュアル専用パスワード

panic

会長挨拶

48年目の思い

烏帽子会 会長 高木 忠博 (1回生 脳神経外科クリニック高木 院長)



我が医学部は、1972年創設以来48年目になりましたが、今年初めて朔啓二郎前医学部長が福岡大学学長に就任され、くわえて卒業生が学部内の全ての執行職に就任されました。我々がコツコツと地道に努力してまいりました、母校を支える人材を生み出す土壌ができあがったもので、これは卒業生全員の力によるものと思います。

これを成し遂げるまで我々の心の活力と支柱になっ

て来たのは何かと考えると、小生は「誇り」と「母校愛」だと思います。それを証明する一つは他の大学に見られない高い会費納入率だと思います。浄罪を母校のために捧げてくれる多くの同窓生を有しているのは母校を愛し、その発展を誇りとする心の表れであり、会長として深く頭を下げたく思っています。また同窓会は、見返りを望まず、後輩と母校にひたすら与える慈父、慈母の集まりであることを共有できていることは喜びに堪えません。

それらに基づいて、新型コロナウイルス対応で多大な地域貢献を成し遂げて賞賛を浴びた一方で、多額の赤字と職員の疲弊に見舞われている福岡大学病院、また、一時は学生の入校制限ならびに対面授業中止に追い込まれた医学部の経済的、精神的逼迫に対して、できうる限りの援助をすることが喫緊の課題と思います。

《新型コロナウイルス感染症流行下での福岡大学医学部慰霊祭》

新型コロナウイルス感染症流行は一応の小康状態になったとはいえ、未だに予断を許さない状況下で、感染拡大防止のため集会は避けなければならない状態が続いています。

一方で、解剖実習に献体していただいた御霊に慰霊と感謝を捧げる福岡大学医学部慰霊祭が

例年通り2020年10月17日、ユウベル積善社福岡斎場で行われました。

ただし、本会場に参列したのは医学部2年生の代表者だけで、残りの2年生は、10月13日にRI大講堂にて三密状態を避けながら焼香がおごそかに行われました。



研究奨励賞

令和2年度研究奨励賞選考報告

選考委員長 安元佐和 (7回生)

令和2年度研究奨励賞には11名の応募があり、6月10日医学部会議室にて選考委員会を開催しました。いずれも甲乙付けがたい優秀論文が揃い厳正なる選考の結果、受賞者を以下の通り決定いたしました。

・最優秀論文賞

福岡大学筑紫病院 消化器内科助教 安川 重義 (29回生)

「Crohn's disease-specific mortality: a 30-year cohort study at a tertiary referral center in Japan. J Gastroenterol. 2019; 54: 42-52.」

・優秀賞

福岡大学筑紫病院 内分泌・糖尿病科 重岡 徹 (33回生)

「Activation of overexpressed glucagon-like peptide-1 receptor attenuates prostate cancer growth by inhibiting cell cycle progression. J Diabetes Investig. 2020; doi: 10.1111/jdi.13247」

・優秀賞

福岡大学病院 呼吸器内科 中尾 明 (準会員)

「Osimertinib in Elderly Patients with Epidermal Growth Factor Receptor T790M-Positive Non-Small-Cell Lung Cancer Who Progressed During Prior Treatment: A Phase II Trial. Oncologist. 2019; 24 593-e170」

・激励賞

仲村 佳彦(27回) 三宅 智(30回)
入江 悠平(31回) 長谷川梨乃(32回)
牟田 芳実(34回) 重本 英二(36回)
柴田 光史(準会員) 瀬戸口大介(準会員)

受賞されました先生がたの益々のご発展をお祈りいたします。来年度の研究奨励賞にも若手研究者から多くの応募をお待ちしております。



● 令和2年度 研究奨励賞受賞者名簿 ●

福岡大学筑紫病院 消化器内科 福大助教 安川 重 義 (正会員 /29 回生)	Crohn's disease-specific mortality:a 30-year cohort study at a tertiary referral center in Japan
福岡大学筑紫病院 内分泌・糖尿病内科 福大助教 重 岡 徹 (正会員 /33 回生)	Activation of overexpressed glucagon-like peptide-1 receptor attenuates prostate cancer growth by inhibiting cell cycle progression
福岡大学病院 呼吸器内科 福大助教 中 尾 明 (準会員)	Osimertinib in Elderly Patients with Epidermal Growth Factor Receptor T790M-Positive Non-Small-Cell Lung Cancer Who Progressed During Prior Treatment:A Phase II Trial
福岡大学医学部 整形外科 福大大学院生 柴 田 光 史 (準会員)	<ul style="list-style-type: none"> • Anatomical study of the position and orientation of the coracoclavicular ligaments:Differences in bone tunnel position by gender • Predictors of safety margin for coracoid transfer: a cadaveric morphometric analysis
福岡大学医学部 整形外科 福大大学院生 瀬戸口 大 介 (準会員)	<ul style="list-style-type: none"> • Hybrid Assistive Limb improves restricted hip extension after total hip arthroplasty • The short external rotators dissection during the posterior approach in total hip arthroplasty did not change the blood flow
福岡大学病院 救命救急センター 福大講師 仲 村 佳 彦 (正会員 /27 回生)	Potential survival benefit of polymyxin B hemoperfusion in patients with septic shock:a propensity-matched cohort study
福岡大学医学部 整形外科 福大助教 三 宅 智 (正会員 /30 回生)	Where and what damage occurs at the acromial undersurface in patients with rotator cuff tears?
福岡大学病院 救命救急センター 福大助教 入 江 悠 平 (正会員 /31 回生)	HMGB1 and its membrane receptors as therapeutic targets in an intravesical substance P-induced bladder pain syndrome mouse model
福岡大学筑紫病院 内視鏡部 福大助手 長谷川 梨 乃 (正会員 /32 回生)	Magnified Endoscopic Findings of Multiple White Flat Lesions:A New Subtype of Gastric Hyperplastic Polyps in the Stomach
福岡大学病院 内分泌・糖尿病内科 福大助手 牟 田 芳 実 (正会員 /34 回生)	Selective androgen receptor modulator,S42 has anabolic and anti-catabolic effects on cultured myotubes
福岡大学病院 循環器内科 福大助手 重 本 英 二 (正会員 /36 回生)	Influence of chronic kidney disease on coronary plaque components in coronary artery disease patients with both diabetes mellitus and hypertension



消化器内科学 平井教授 (14 回生) と



内分泌・糖尿病内科学 川浪教授 (21 回生) と



安川先生



重岡先生



中尾先生



柴田先生



瀬戸口先生



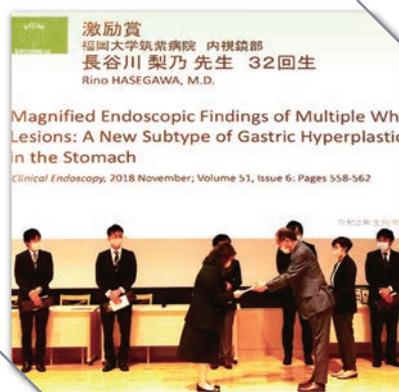
仲村先生



三宅先生



入江先生
仲村先生へ代理授与



長谷川先生



牟田先生



重本先生

新型コロナウイルス感染症拡大防止による総会中止のため、研究奨励賞の授与が出来ない状況になりました。来年開催予定の総会にて授与することも検討されましたが、感染対策を行い8月の理事会で授与することを決めました。例年時間の関係上、激励賞の授与が叶いませんでしたが、今年は受賞者全員に授与することができました。

令和2年度 受賞論文抄録

Crohn's disease-specific mortality: a 30-year cohort study at a tertiary referral center in Japan (論文)

福岡大学筑紫病院 消化器内科 安川 重義 (29 回生)



【背景・目的】クローン病患者の生命予後や死因に関する報告は少なく、本邦における報告はほとんどない。そこで、クローン病患者を多く診療する当院において、多数例を長期間観察し、生命予後や死因について検討した。

【方法】1967年5月から2015年12月までに当院に通院歴のあるクローン病1108例を対象に、診断からの累積生存率、死因別の標準化死亡比(SMR)について調査した。

【結果】1)対象は男性758例、女性350例。平均観察期間は 14.6 ± 9.4 年(0.5-47.2年)。その1108人中で観察された死亡は52例であった。死亡平均年齢は 48.1 ± 14.6 歳、診断からの平均観察期間は 18.3 ± 8.8 年であった。2)クローン病診断からの累積生存率は、20年後94.6%(95%CI:92.2-96.2)、30年後86.0%

(95%CI:80.4-90.1)で、標準人口モデルの累積生存率と比較すると、診断後22-24年、27年以降は有意に低かった。3)All causesでのSMRは3.5(95%CI:2.7-4.6)。その中で、悪性腫瘍で5.4(95%CI:3.5-8.5)、消化器疾患で48.4(95%CI:29.2-80.3)、アミロイドーシス1000(95%CI:416-2402)と高く、呼吸器・循環器疾患では有意差は認めなかった。

【結論】単施設での検討ではあるが、クローン病のSMRは3.5と高く、観察期間を延長することで、累積生存率が低くなる可能性が示唆された。また、死因としてはクローン病に関連した死因でSMRが高くなっており、特に短腸症候群を含む消化器疾患、小腸・大腸癌、二次性アミロイドーシスでSMRが高くなっていた。

最後に、ご指導いただきました、松井敏幸先生、平井郁仁先生、また、筑紫病院で炎症性腸疾患の診療に関わって頂いたすべての先生に感謝申し上げます。

Activation of overexpressed glucagon-like peptide-1 receptor attenuates prostate cancer growth by inhibiting cell cycle progression(論文)

福岡大学筑紫病院 内分泌・糖尿病内科 重岡 徹 (33 回生)



我々は、ヒト前立腺癌組織にGLP-1受容体(GLP-1R)が発現している事を発見し、抗糖尿病薬であるGLP-1R作動薬Exendin-4(Ex-4)投与が前立腺癌細胞増殖を抑制する事を報告した(Diabetes 2014, PLoS ONE 2015)。今回、GLP-1Rを過剰

発現させた前立腺癌細胞の増殖能検討、ヒト前立腺癌組織のGLP-1R発現を検討した。方法:前立腺癌組織を病理学的悪性度指標のGleason scoreで分類し

GLP-1R免疫染色を行った。GLP-1受容体未発現前立腺癌細胞株ALVA-41細胞にレンチウイルスを用いてGLP-1Rを過剰発現させたALVA-41-GLP-1R細胞を作成、増殖能をIn Vitro、In Vivoで検討した。

結果:GLP-1R発現は、悪性度と逆相関を認めた。ALVA-41-GLP-1R細胞はIn Vitro、In VivoにおいてEx-4投与で用量依存的に増殖抑制を認めた。

結論:今回の実験結果からGLP-1Rと前立腺癌悪性度は密接に関係している事が示され、新たな治療法の糸口となる可能性が示唆された。

Osimertinib in Elderly Patients with Epidermal Growth Factor Receptor T790M-Positive Non-Small-Cell Lung Cancer Who Progressed During Prior Treatment: A Phase II Trial (論文)

福岡大学病院 呼吸器内科 中 尾 明 (準会員)



肺癌治療は、癌細胞における遺伝子変異の発見と分子標的治療薬の開発により飛躍的に成績が向上した。EGFR 遺伝子は最も高頻度で先駆けとなった遺伝子変異であり、オシメルチニブ (Osimertinib) がキードラッグとされるが、本剤の高齢者におけるデータはなかった。

高齢化が進む本邦において、その検証は急務であると考えた。

75歳以上のEGFR陽性非小細胞肺癌で、T790M耐性変異のある症例を対象とし、多施設共同、単群前向き第II相試験を実施した。主要評価項目は全奏効率(ORR)、副次評価項目は無増悪生存期間、全生存期間、病勢制御

率(DCR)、安全性とした。登録終了から2年間のフォローを当初予定していたが、高齢者におけるOsimertinib投与のデータが臨床的に重要と考えられ、主要評価項目の解析が終了した時点で第一報を報告した。

結果、36例が登録され、Osimertinib 80mg 投与時のORRは58.3% (95%CI: 42.2%-72.9%)、奏効期間は27.9週であり、DCRは97.2%であった。ORRのCIの下限が35%の閾値を超えたため、統計的に有意な結果が示された。本論文のデータカットオフ時点では、既存の試験より高頻度に食欲減退が観察された(38.9%対21%)が、Grade3以上の事象は食欲減退と下痢のみで治療中止を必要とする事象はなかった。

以上より、Osimertinibの有効性・安全性は高齢者においても担保される可能性が高いと考えられた。

令和3年度 福岡大学医学部同窓会烏帽子会

研究奨励賞募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40才未満の者または学部卒業後10年未満の者
(本会会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由(医学に関する研究計画又は研究論文)

申請方法：所定の申請書による(所定欄に支部長推薦を要す)

提出先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 / 内線 3032 Fax 092-865-9484

締 切：令和3年5月6日(木) 提出は一人一件とする

賞状・賞金：奨励賞(優秀論文賞を含む)5件以内

発表及び表彰：令和3年7月3日(土)予定、第39・40回合同福岡大学医学部同窓会烏帽子会総会席上
必ず出席する事

そ の 他：①論文受賞者は抄録を提出すること

計画受賞者は1年後研究成果報告書を提出すること

②申請書は同窓会事務局に請求又は同窓会ホームページからダウンロードの事

③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績(原著、著書、症例報告、学会発表)、
研究の独創性・重要性を十分に書く事

※準会員の方もご応募ください。

令和1年度評議員会

令和2年4月25日予定の評議員会を、7月4日に変更し開催予定にしておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止し、書面による決議で承認に替えることにしました。6月24日に全役員へ送付し、7月31日を審査葉書の締め切りとしました。役員118名の内93名から返送され全議案について承認されました。

◇議題1. 令和1年度収入支出決算見込 承認

◇議題2. 令和1年度事業報告及び
令和2年度事業計画(案) 承認

- ①会報の発行
- ②総会の開催
- ③支部活動援助
- ④研究奨励賞

- ⑤在外研修援助金
- ⑥学生対策
- ⑦白衣贈与
- ⑧国試対策費
- ⑨支部祝儀贈与
- ⑩学生行事援助
- ⑪学会寄付
- ⑫慶弔贈与
- ⑬グッズ作製
- ⑭会員名簿
- ⑮パニックマニュアルの発行
- ⑯保険コンサルティング紹介
- ⑰縁結び
- ⑱ホームページ

◇議題3. 令和2年度収入支出予算(案) 承認

◇議題4. 第20期役員並びに会長推薦 承認
高木会長20期目

福岡大学医学部同窓会烏帽子会

在外研修援助金 募集要項

長期研修

対象：正会員、準会員（本会会費完納を条件とする）で医学の研究または医療技術の習得のため、3ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出の事

提出先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会事務局

T E L 092-865-6353(直通) 代表 092-801-1011 / 内線 3032

F A X 092-865-9484

援助金：1件20万円を限度とし、年間5件以内

発表：本人に文書にて連絡

その他：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表する事

②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事

③研修中に生じた問題については同窓会は関与しない

※なお在外研究援助金をうけ留学している者は、出来る限り学生会員海外研修助成事業に賛同し、渡航研修する受け入れ側施設担当者として、協力する事が望ましい。

教室紹介

同窓会報では以前も教室医局紹介を掲載しておりました。
教授が代わられた講座が増えましたので69号より順次教室紹介を掲載いたします。

腫瘍・血液・感染症内科学講座

福岡大学医学部 腫瘍・血液・感染症内科学 教授 高松 泰 (特別会員)

高齢化に伴いがん患者数が増加しています。治療も進歩し、がん細胞に特異的に作用する分子標的薬療法や、免疫チェックポイント阻害薬など画期的な免疫療法が開発され、がん患者の生存期間は延長しています。その結果、がん治療を受けながら仕事や日常生活を続ける人が増えており、がんに伴う身体的、精神的な苦痛のみならず、仕事や家庭、経済面など社会的な苦痛に対するケアが重要になっています。当科では、血液腫瘍や固形がんに対して最適な薬物療法を行うとともに、多職種で協力してがん患者が抱えるこれらの問題を解決すべく努めています。また学生にも全人的医療を理解し実践でき

るよう教育しています。

新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、社会生活は大きな影響を受けています。当科では新型コロナウイルス感染症を含めた感染制御に携わるとともに、学生に対して臨床に即した感染症学の講義、ベッドサイド教育を行っています。

今後とも診療、教育に全力を尽くす所存です。リンパ腫や骨髄腫、白血病などの血液疾患、乳癌をはじめ固形がんに対する薬物療法が必要な患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当科にご紹介いただければ幸いです。



内分泌・糖尿病内科学講座

福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科学 教授 川浪大治 (21回生)

この度は講座紹介の機会を頂き、誠にありがとうございます。当講座の大きな特徴は多様性だと言えます。出身大学や、研修を受けてきた環境、社会的背景の異なる者が切磋琢磨しており、各々の得意分野を生かし、互いを補完しながら専門医療を実践しています。卒後教育では Generality と Subspecialty の調和がとれ、研究心を持った医師の育成を目指しています。卒前教育の充実も重視しています。オンライン授業の拡充に対応し、他大学と合同の海外一流誌の抄読会を学生に課しております。資料作成や発表を相互に行うことで、自分たちを客観視する機会

になればと願っています。また、原著論文を適切に引用したレポート作成指導を行い、EBM やそれを裏打ちする基礎研究の大切さに触れさせるよう心がけています。研究は中長期的および短期的目標を掲げ、糖尿病における新たな臓器関連の解明を目指したプロジェクトに着手しております。新入医局員には次の言葉を投げかけています。①常に謙虚であること、②やると決めたら全力を尽くすこと、③時代の変化に対応すること。内科学の魅力を伝えられる講座作りに努めて参ります。諸先生方のご指導をお願い申し上げます。



心臓・血管内科学講座

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 医局長 志賀悠平 (26 回生)

当教室は、1973 年 4 月に荒川規矩男名誉教授が「内科学第二」を開設され、2000 年 4 月からは、福岡大学学長の朔啓二郎教授が主管し、内科学講座の改変より 2007 年 4 月に「心臓・血管内科学」と講座名が変更となり 2017 年 4 月より三浦伸一郎先生が教授に就任され、現在に至ります。また、福岡大学病院では、「循環器内科」を標榜しています。循環器内科では、虚血性疾患（狭心症や心筋梗塞）、不整脈疾患、末梢血管疾患、心不全、構造的な心疾患（大動脈弁狭窄や僧帽弁逆流などの弁膜症、成人先天性心疾患）を対象とした専門チームを編成し、近隣医療施設からの相談や胸部疾患の救急患者の受け入れにも 24 時間対応しています。さらに、新診療棟ハートセンターにて、心臓血管外科と連携の下ハートチームとして CCU の拡充および専門的な心臓リハビリテーションを本格的に行っています。

当科は、教室全体に活気があり人を育てる環境づく

りを意識しています。患者さんに対しては「断らない医療」を掛け声に、常に患者さんに寄り添うことを心がけています。今後は、更に多くの臨床試験を企画し、様々な先端治療や臨床エビデンスの創出を目指します。そして、教室員一同が一般内科から循環器専門まで診療できる医師であることを目指しています。

また、福岡大学の 3 病院は、循環器内科診療を実施しており、心臓・血管内科学講座（当講座出身も含む）として、福岡大学病院循環器内科に 43 名の医師が所属し、福岡大学筑紫病院循環器内科 10 名と福岡大学西新病院循環器内科 7 名の医師を出向させています。今後、福岡大学の循環器医療が飛躍的に発展するために、3 病院の各循環器内科の特性を生かしつつ三位一体となり、相補・互換性を持った医療の実践に努める必要があります。

同窓会の先生方には、今後ともご指導・ご鞭撻を宜しくお願いいたします。



消化器内科学講座

福岡大学医学部 消化器内科学 教授 平井郁仁 (14 回生)

福岡大学医学部同窓会の皆さま、消化器内科の平井です。会報で教室を紹介する機会を与えて頂き、ありがとうございます。現在、消化器内科には総勢 47 名が所属しており、内訳は院内在籍者 35 名(うち大学院生 4 名、研究生 6 名)、院外出向者 12 名です。消化器内科は消化管、肝臓、胆膵領域と幅広い領域にわたります。当教室では、各々の領域にエキスパートがおり、日々の診療に注力しております。例えば内視鏡検査は年間約 1 万例行っており、内視鏡的粘膜下層剥離術に代表される内視鏡治療は 1000 例を超え、現在進行形で増え続けています。消化器内科医は朝から晩まで体を使う検査や治療に明け暮れており、白衣こそ着ていますが、ほとんどブルーカラーです。逆に言えば、その教育には臨床の現場での経験が必須です。新型コロナウイルスにより様々なイベントが中止や規模縮小を余儀なくされています

が、消化器内科では感染対策を講じながら回診や各種カンファレンスで学生、研修医、若手医師の教育に努めています。基礎あるいは臨床研究は、実臨床に基づくユニークな着想がなければ新知見は生まれないとの信念から日常診療の Clinical question を解決するオリジナリティーが高いものに取り組んでいます。

最近、「メタルカラー」という言葉を耳にしますが、高度な技術を持つ、創造的な工業技術者を意味するそうです。我々も単なるブルーカラーではなく、医学における高度な技術・専門性を持ち消化器臨床の発展に寄与できる「メタルカラー」を目標とし、精進したく存じます。個の力だけでなく教室全体の向上のため、活気にあふれ明るい未来について語りあえる教室にしたいと思っております。今後ともご支援、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



呼吸器内科学講座

福岡大学医学部 呼吸器内科学 教授 藤 田 昌 樹 (特別会員)

2017年4月より三代目教授藤田昌樹が就任しました。2020年4月から井上博之准教授を迎え、スタッフ9名、医局員28名で運営しています。

診療としては、肺癌、気管支喘息・COPD、肺炎・肺非結核性抗酸菌症などの感染症、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群などが中心となっています。本年初めからのCOVID-19流行に伴い、COVID-19診療にも従事してきました。肺癌患者数の急増に伴い肺癌診療が中心になっていますが、肺癌診療以外にも、サーモプラスティや生物学的製剤の気管支喘息治療、間質性肺炎に対するクライオバイオプシーなどの新規医療も実践中です。また基礎研究では、ウ

イルスや非結核性抗酸菌症などの感染症研究、COPD発症機序研究、間質性肺炎病理研究、井上准教授を中心とした肺癌研究を行っています。

先端的医療から感冒まで、呼吸器内科領域であれば全ての疾患を診療するのを目標としています。2017年以降新たに、福岡大学西新病院、糸島医師会病院、白十字病院、福岡山王病院、福岡徳洲会病院へのスタッフ派遣を行い、福岡市西南部・糸島地区を中心に呼吸器疾患診療充実を目指しています。基礎研究にも今後は注力したいと考えています。今後ともご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。



脳神経内科学講座

－ 地域の要としての脳神経内科を目指して －

福岡大学医学部 脳神経内科学 医局長 合馬 慎二 (23 回生)

脳神経内科学教室は、2011 年に坪井義夫教授就任と共に新たなスタートを切りました。毎年教職員は増えて現在、院内 17 名、関連病院 11 名の医師、また臨床心理士や研究員など多くの優秀な人材を抱えるまでに発展しました。臨床面では、毎日の新患外来、脳卒中を含めた入院診療をはじめ、パーキンソン病診療センターや認知症疾患医療センターなど多職種連携によるセンターを設け、地域の先生方のニーズに応えるべく、努力しております。また研究面では家族性パーキンソン病 Perry 病研究では世界をリードし、多くの基礎・臨床研究を行い、学会や論文で

発表することで医療の発展に貢献できるよう精進しています。学生教育や研修医教育にも力を入れ、臨床の現場を直に見せることを大切にしています。超高齢社会を迎えた我が国では、パーキンソン病や認知症、脳卒中など脳神経内科医の需要は高まっており、臨床力を持つ脳神経内科医を送り出すことが教室の使命と考えています。2018 年に「神経内科」から「脳神経内科」に名称変更になりました。我々の教室は、医局員がお互いにサポートし合う「全員野球」をモットーにこれからも地域の要として皆様に必要とされる教室を目指していきます。



学会報告

第38回日本小児心身医学会学術集会 (Web開催)を主催して

久留米大学病院 小児科 永 光 信一郎 (13 回生)



2020年9月11日から13日の3日間にわたり、第38回日本小児心身医学会学術集会をWebで開催いたしました。福岡大学医学部同窓会(烏帽子会本会および筑後支部)様のご支援のもと、成功裏に終了することができましたこと、心より厚く御礼申し上げます。COVID-19の影響により現地開催は叶いませんでしたが、Webの利便性が功を奏し、例年の学会参加者数より2割多い600人の視聴者登録がありました。基調講演、特別講演、教育講演およびシンポジウムは、各勤務先にいらっしゃる座長および演者の方々にライブで参加していただき、一般視聴者からはチャットで質問を受けつけました。一般演題は事前収録したものをスケジュール通り定刻に放映し、質疑応答のみライブで行う方式をとりました。さらに、学会開催期間を「学びの期間」と位置づけ、各講演終了直後から13日深夜までの間に講演のオンデマンド配信を実施し、希望者へ視聴の機会を提供しました。Web懇親会にも100人以上の方にご参加いただき、理事や子ども達によるリレー歌唱や踊りなどを行い、人が集う学術集会の雰囲気やWeb

で表現することができました。開催にあたりご尽力くださいました関係者の皆様に改めてお礼を申し上げます。

今年のテーマは、「思春期の心とからだ～サイエンスとアートの融合～」でした。子どもの心の問題を解決するためには、その心身相関をサイエンスの視点をもって科学的に解明していく必要があります。一方で、心の診療医による臨床は匠の技であり、アートと言っても過言ではありません。このサイエンスとアートの2つが融合することで、心に悩みのある子ども達とその家族の幸せが向上すると考えられます。小児科領域においては、救急医療の充実や予防接種の普及により、疾病は軽症化し、感染症も減少しています。今後はさらに、慢性疾患の子のケアや、行動や発達の問題への対応、メンタルヘルス疾患の対応などが求められており、サイエンスとアートの融合がますます重要となってくるでしょう。

最後に、本学術集会期間中に開催された理事会で、私が本学会の理事長に選任されました。引き続き皆様のご理解とご協力をいただきながら、子ども達が過ごしやすい社会を医療の立場から支援し続けていく所存です。今後ともさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「当直医のためのパニックマニュアル第7版」 書籍と電子ブック作成のご報告

編集委員 林 英之 (1回生) 北島 研 (21回生) 安野 哲彦 (24回生)

このたび烏帽子会企画・編集によるパニックマニュアル第7版が完成いたしましたので、同窓会会報とともにお届けします。

平成2年(1990年)に福岡大学医学部同窓会よりパニックマニュアルが誕生してから、今年で30年になります。

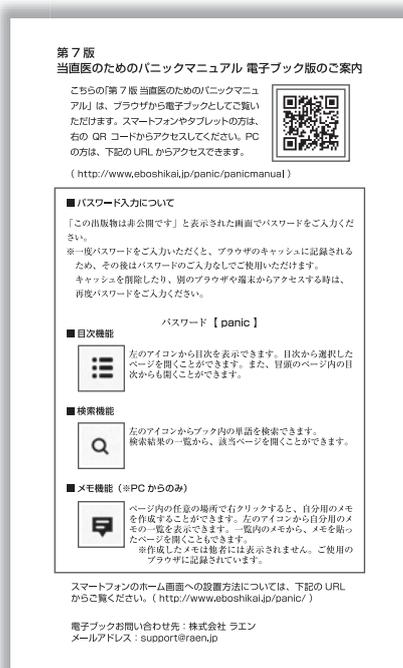
研修医の先生の白衣のポケットや先輩の診察室のデスクの上にパニックマニュアルを見つけては、いつも大変嬉しく思っていました。

第7版パニックマニュアルでは、初版と同じロゴを入れつつ表紙デザインを一新しました。コンセプトは変わらず、“卒後まもない新卒業生医師へ、先輩医師達の色々なパニック経験から臨床応用性の高い指導書を、卒業生全員の知識を結集して贈ろう”です。伝統を受け継ぎながら、新しくなった診断基準やガイドラインを取り入れ、医学書としての適性レベルを保っています。

これまで同様、診療現場で診る“症候”を目次にし、“鑑別疾患”、“検査”、“処置・治療”を分かりやすく見つけられるようにしております。

そして今回新たにブラウザを用いたパニックマニュアル電子ブックを作成しました。お手持ちのスマートフォンやタブレットから説明図のQRコードを読み取って下さい。パスワード「panic」を入力すると、ご希望の単語検索はもちろん、目次から直接ページを開くこともできます。このページをスマートフォンで「ホーム画面に追加」して頂くとアイコンが出てきてパニックマニュアルがアプリ感覚で使用できます。またパソコンではメモ機能もご利用できます。詳しくはパニックマニュアルにも挟み込んでおります説明図や烏帽子会ホームページをご覧ください。

最後になりましたが、前版からの執筆者の先生、今版ご執筆頂いた先生、監修頂いた先生、編集頂いた大道学館出版部、烏帽子会事務局、ご協力頂いた全ての皆様に感謝申し上げます。



スマートフォン
アイコン

福岡大学医学部同窓会諸表

令和元年度収入支出決算

区分	科 目	R1 年度予算	R1 年度決算	R1 決算予算比較	R1 決 算 内 訳
収 入	繰 越 金	12,400,884	12,400,884	0	
	会 費 収 入	30,250,000	21,881,763	8,368,237	入会費：892,972 学年会費：1,022,357 年会費：19,805,156 準年会費：161,278
	保険コンサルティング広告料	250,000	250,000	0	
	雑 収 入	20,000	12,011	7,989	福岡支部総会関連：10,000 Tシャツ：2,000 預金利子：11
	預り金収入	40,000	65,468	▲ 25,468	
	仮 入 金	0	6,000,000	▲ 6,000,000	
	合 計	42,960,884	40,610,126	2,350,758	
支 出	給 与	3,330,000	2,748,870	581,130	パート2名
	旅 費	2,300,000	2,567,242	▲ 267,242	役員旅費：607,374 私大連絡会：817,548 通勤旅費：190,160 その他：952,160
	事務用品費	400,000	399,525	475	
	印 刷 費	3,039,500	1,476,057	1,563,443	会報：1,286,034 封筒：135,920 その他：54,103
	通信運搬費	2,000,000	1,547,766	452,234	電信電話：93,668 会報：904,348 切手葉書：109,770 その他：439,980
	設備工事費	300,000	302,220	▲ 2,220	維持契約
	什器備品費	240,000	489,984	▲ 249,984	パソコン、スキャナ
	事 業 費	21,284,000	16,168,868	5,115,132	総会費：284,000 研究奨励賞：1,538,440 在外研究援助金：500,000 学生会員支援：3,131,485 国試対策費：766,876 学生行事援助費：205,432 支部活動費：4,263,197 支部祝儀：180,000 M1M5 白衣贈与：1,479,564 慶弔費：2,064,700 学会寄付：1,550,000 縁結び支援費：89,112 WEB サイト：23,112 保険コンサルティング：92,950
	会 議 費	2,000,000	607,840	1,392,160	理事会、会長懇話会：572,677 評議員会：0 各種会議他：35,163
	公 租 公 課	71,000	71,000	0	福岡県民税：21,000 福岡市民税：50,000
雑 費	2,032,400	2,001,884	30,516	税理士報酬：32,400 渉外費：104,490 業務用グッズ：9,363 その他：1,827,771	
預り金支出	40,000	65,548	▲ 25,548	給与源泉徴収税	
引当金積立	4,500,000	0	4,500,000		
借入金返却	0	0	0		
予 備 費	1,423,984	0	1,423,984		
	合 計	42,960,884	28,446,804	14,514,080	
収 支 差 引	0	12,163,322	▲ 12,163,322		

令和元年度残金処分

残金額（収支差引額）	12,163,322 円
奨学金積立金積立	0 円
刊行物積立金積立	0 円
事業積立金積立	0 円
次年度繰越	12,163,322 円

令和元年度特別会計決算

	事業積立金	奨学金積立金	刊行物積立金	合 計
前年度より繰越	89,281,523	13,589,623	10,783,363	113,654,509
本年度増加額	1,000,000	352,500	1,000,000	2,352,500
本年度受取利息	1,733			
本年度減少額	▲ 9,957,526		▲ 2,784,870	▲ 12,742,396
本年度未決算額	80,325,730	13,942,123	8,998,493	103,266,346

令和元年度事業報告と令和2年度事業計画

年度 項目	令和1年度 事業計画	令和1年度 事業報告	令和2年度 事業計画	
	予算 (A)	実績 (B)	予算 (C)	C - A
① 会報の発行	3,679,100	2,189,182	5,106,350	1,427,250
② 総会の開催	400,000	284,000	600,000	200,000
③ 支部活動援助	1,900,000	4,263,197	2,000,000	100,000
④ 研究奨励賞	2,000,000	1,538,440	2,000,000	0
⑤ 在外研究援助	2,000,000	500,000	2,000,000	0
⑥ 学生対策	4,600,000	3,131,485	3,600,000	▲ 1,000,000
⑦ 白衣贈与	2,000,000	1,479,564	2,000,000	0
⑧ 国試対策費	2,000,000	766,876	2,000,000	0
⑨ 支部祝儀贈与	230,000	180,000	230,000	0
⑩ 学生行事援助	800,000	205,432	400,000	▲ 400,000
⑪ 学会寄付	3,000,000	1,550,000	1,500,000	▲ 1,500,000
⑫ 慶弔贈与	300,000	2,064,700	300,000	0
⑬ グッズ作製	1,500,000	707,100	0	▲ 1,500,000
⑭ 会員名簿発行	0	0	0	0
⑮ パニックマニュアル発行	3,000,000	2,784,000	837,000	▲ 2,163,000
⑯ 奨学金貸与	0	0	0	0
⑰ 縁結び	1,000,000	89,112	500,000	▲ 500,000
⑱ 保険コンサルティング	30,000	92,950	30,000	0
⑲ ホームページ	24,000	23,112	24,000	0
合計	28,463,100	21,849,150	23,127,350	▲ 5,335,750

令和2年度収入支出予算

区分	科目	R1 予算	R2 予算	R2 年度予算摘要	R1 予算 - R2 予算
収入	繰越金	12,400,884	12,163,322		237,562
	会費収入	30,250,000	30,340,000	入会費：4,360,000 学年会費：4,740,000 年会費：21,100,000 準年会費：140,000	▲ 90,000
	手数料	250,000	250,000	保険コンサルティング紹介手数料	0
	協賛金収入	20,000	20,000		0
	雑収入	40,000	40,000	グッズ売上ほか	0
	預り金収入	0	0	給与源泉徴収税	0
	積立金繰入	0	0		0
	仮受金				0
合計	42,960,884	42,813,322		147,562	
支出	給与	3,330,000	3,330,000	パート2名	0
	旅費	2,300,000	2,400,000	役員旅費：600,000 評議員会：600,000 私大連絡会：500,000 通勤費：200,000 その他：500,000	▲ 100,000
	事務用品費	400,000	400,000		0
	印刷費	3,039,500	4,760,000	会報・封筒：4,100,000 封筒：500,000 その他：160,000	▲ 1,720,500
	通信運搬費	2,000,000	2,100,000	電信電話：100,000 会報：1,200,000 切手葉書代：300,000 その他：500,000	▲ 100,000
	設備工事費	300,000	310,000	維持契約費	▲ 10,000
	什器備品費	240,000	240,000		0
	事業費	21,284,000	18,784,000	総会費：600,000 研究奨励賞：2,000,000 在外研修援助金：2,000,000 学生会員支援費：3,600,000 国試対策費：2,000,000 学生行事援助費 400,000 支部活動費：2,000,000 支部祝儀：230,000 M1,M5 白衣贈与費：2,000,000 大学院生援助：600,000 慶弔費：300,000 学会寄付：1,500,000 縁結び：500,000 保険コンサルティング：30,000 WEB サントサーバー費：24,000 事業予備費：1,000,000	2,500,000
	会議費	2,000,000	2,000,000	理事会、会長懇話会：700,000 評議員会：500,000 各種委員会：300,000 その他：500,000	0
	公租公課	71,000	71,000	福岡市県民税	0
	雑費	2,032,400	2,032,400	税理士報酬：32,400 渉外費：500,000 慶弔費：500,000 その他：1,000,000	0
	預り金支出	40,000	40,000	給与源泉徴収税	0
	引当金積立	4,500,000			4,500,000
協賛金支出	0	0		0	
借入金返却		5,000,000		▲ 5,000,000	
予備費	1,423,984	1,345,922		78,062	
合計	42,960,884	42,813,322		147,562	
収支差引	0	0		0	

医局長・医長名簿 (○内の数字は福大医学部卒業回)
(令和2年10月現在)

	医局長	病棟医長	外来医長
[福岡大学病院]			
腫瘍・血液・感染症内科	佐々木 秀法	中島 勇太 ③①	茂木 愛 ②⑤
内分泌・糖尿病内科	元永 綾子 ②⑦	高橋 弘幸	高士 祐一
循環器内科	志賀 悠平 ②⑥	二見 真紀人	末松 保憲
消化器内科	石橋 英樹 ②③	阿部 光市	高田 和英 ②⑤
呼吸器内科	井形 文保 ③④	平野 涼介	青山 崇
腎臓・膠原病内科	伊藤 建二 ②⑤	永室 尚子	高橋 宏治 ③②
血液浄化療法センター		安野 哲彦 ②④	
脳神経内科	合馬 慎二 ②③	藤岡 伸助 ②⑥	小倉 玄睦 ③⑤
精神神経科	飯田 仁志 ③②	原田 康平	大串 祐馬
〃 (デイケア)			永野 健太
小児科	石井 敦士 ③⑩	太原 鉄平 ③⑩	井原 由紀子
消化器外科	塩飽 洋生 ②⑥	愛洲 尚哉	榎 研二 ②④
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	宮原 聡	徳石 恵太	阿部 創世 ③③
整形外科	木下 浩一 ②⑥	田中 潤	西尾 淳 ①⑧
形成外科	森田 愛	山口 崇之	鈴木 翔太郎
脳神経外科	野中 将 ①⑥	福本 博順 ③⑤	松本 順太郎 ③②
心臓血管外科	林田 好生 ②⑩	寺谷 裕充 ③⑩	尼子 真生
皮膚科	柴山 慶継 ②⑦	清水 裕毅 ③⑥	山口 和記
泌尿器外科	入江 慎一郎 ①⑦	松崎 洋史 ②⑦	宮崎 健 ③④
産婦人科	宮原 大輔 ②⑩	倉員 正光 (産科) 吉川 賢一 ③⑥(婦人科)	深川 怜史 ③②(産科) 伊東 智宏 ②⑨(婦人科)
〃		岡村 寛能	伊崎 亮介 ③⑤
眼科	原田 一宏	打田 義則 ③④	妻鳥 敬一郎 ③②
耳鼻咽喉科	大西 克樹 ②⑤	赤井 智春 ②⑦	坂本 桂子
放射線科	浦川 博史 ①⑤	平井 規雅	柴田 志保 ②⑥
麻酔科	富永 健二 ③⑩	喜多 涼介	吉野 綾
歯科口腔外科	瀬戸 美夏		
病理部	濱田 義浩 ①④		
臨床検査部	大久保 久美子		
輸血部	熊川 みどり		
救命救急センター	入江 悠平 ③①	水沼 真理子	
総合周産期母子医療センター		瀬戸上 貴資 ②⑥(新生児部門) 岩中 剛 (3階南病棟)	
総合診療部	増井 信太 ②⑨	加藤 禎史	崎原 永志 ③③
東洋医学診療部	坂本 篤彦		
[福岡大学筑紫病院]			
筑紫病院(総医局長)	工藤 忠睦 ②③	(内分泌・糖尿病内科)	
循環器内科	池 周而 ②④※	山本 智彦 ③⑩	足達 宣 ③⑩
内分泌・糖尿病内科	工藤 忠睦 ②③	重岡 徹 ③③	小林 邦久
呼吸器内科	串間 尚子	木下 義晃	石井 寛
消化器内科	宮岡 正喜 ②③	古賀 章浩 ②⑨	丸尾 達 ③⑩
小児科	井上 貴仁 ①⑤	平井 貴彦 ③⑥	堤 信 ②④
外科	東 大二郎 ①⑤	宮坂 義浩	吉田 康浩 ②④
整形外科	秋吉 祐一郎	南川 智彦	蓑川 創 ③⑩
脳神経外科	井上 律郎 ②⑨	新居 浩平 ②④	井上 律郎 ②⑨
泌尿器科	平 浩志 ①⑤	平 浩志 ①⑤	宮島 茂郎 ②②
眼科	藤田 秀昭	藤田 秀昭	海津 嘉弘
耳鼻いんこう科	梅野 悠太 ③④	梅野 悠太 ③④	前原 宏基 ③⑥
放射線科	山本 良太郎 ②②		
救急科	松尾 邦浩 ⑧		
麻酔科	若崎 るみ枝		
病理部	原岡 誠司	(筑紫病院の※印は、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長)	

教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）[令和 2.4.2～令和 2.10.1]

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要
退職	産婦人科	講師	南星旭 ㉘	2.9.30	
昇格	卒後臨床研修センター	准教授	北島研 ㉙	2.10.1	
	腎臓・膠原病内科学	准教授	安野哲彦 ㉚	2.10.1	
	消化器外科学	講師	塩飽洋生 ㉛	2.10.1	
	消化器外科	講師	梶原正俊	2.10.1	
	産婦人科	講師	倉員正光	2.10.1	
	産婦人科	講師	宮田康平 ㉜	2.10.1	
	脳神経外科	講師	野中将 ㉝	2.10.1	
	消化器外科	講師	山田哲平 ㉞	2.10.1	
	消化器外科学	講師（4-7）	愛洲尚哉	2.10.1	
	産科婦人科	講師（4-7）	漆山大知	2.10.1	
	皮膚科	講師（4-7）	佐藤絵美 ㉟	2.10.1	
	皮膚科	講師（4-7）	鶴田紀子	2.10.1	
	細胞生物学	講師（4-7）	松崎洋吏	2.10.1	
	内視鏡部	講師（4-7）	石田祐介	2.10.1	
	救命救急センター	講師（4-7）	入江悠平 ㊱	2.10.1	

訃報

正会員 貝塚博美先生 令和元年12月21日 ご逝去（3回生）
 特別会員 永田武明先生 令和2年5月31日 ご逝去
 特別会員 西丸雄也先生 令和2年6月19日 ご逝去

事務局からのご連絡

◆会報68号に誤りがありましたので下記のとおり訂正させていただきます。
 関係者の方々に多大なるご迷惑をおかけいたしました。心よりお詫び申し上げます。
 会報・教育職員人事38ページ
 退職 呼吸器内科学 教授 中島 衡 → 腎臓・膠原病内科学 教授 中島 衡

告知

福岡大学医学部同窓会 第39・40回合同烏帽子会総会

開催日 2021年7月3日 土 4:00PM～8:00PM

会場 ソラリア西鉄ホテルにて

編集後記

もうすぐ2020年も終わります。本来なら東京オリンピック・パラリンピックが開催され、世界中が歓声に沸き、日本にも各国から大勢の人々が集まり大いに盛り上がったはずでした。しかし、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）で東京オリ・パラが延期されただけでなく、とにかく何かとCOVID-19に振り回された一年でした。

小児科や耳鼻科の受診控えが大きく報道されている中、心療内科の受診者が増えているとの記事がありました。内科・循環器内科を標榜している私のクリニックでさえ不定愁訴を訴えて受診する中高生が増えており、専門医受診が必要と考えて紹介してもなかなか予約が取れないという状況です。COVID-19による日常様式の変化が、今後どの様に子供たちの心身の成長に影響を及ぼすのか心配です。

烏帽子会会員の皆様も、診療や私生活にこれまで以上に煩わしさやストレスを感じられておられることと存じます。この冬を何とか乗り切って、2021年にはいつもの日常が戻ることを切に願っております。

我が福岡大学医学部においては、朔学長をはじめ多くの同門の先生方がご活躍されており、大変頼もしく嬉しく感じています。同門の先生方のさらなる飛躍を祈念しております。

最後に、臨床でいざという時に頼りになる「パニックマニュアル第7回版」作成に関わって頂いた諸先生方に心から御礼申し上げます。

文責 下地 栄壮（20回生 広報担当理事）

FU-OMSA賞状授与開催までの経緯について

福岡大学医学部学部長・同窓会副会長 小玉 正太 (13回生)

世界的な感染流行の収束はまだ程遠いものの、国内では10月に入りコロナ対応も多少緩和ムードとなってきました。ただ学内では未だ制限が多いですが、皆様は如何お過ごしでしょうか。

朔学長のメッセージにもありました、「命ファースト」を念頭に医学部も4月から遠隔授業を実施しました。しかし、実習をはじめ遠隔授業だけでは、どうしても埋めることのできない実教育の壁があり、学部独自の施策でコロナ感染症対策を行い6月より対面授業を始めました。開始にあたり、大学と自宅以外の外出自粛、クラブ活動の自粛、飲食の自粛など学生達には厳しい状況を病院の制限と連携し強いてきました。同窓会主催の新入生歓迎会、M6激励会、M4激励会、1年生への白衣授与式。学生会主催の新入生歓迎会、クラブ案内も自粛の対象としました。それでもいずれ医師として医療現場に挑んでいく学生達は十分理解し自覚してくれました。そして、現在に至るまでまでクラスター発症はもちろん、各部内で学生の発症すら認めておりません。この結果について、学部長からのメッセージとして伝えたいことがありました。多くの制限に対応し自制を続け制限コードを厳守してきた学生諸君を私は大変誇りに思っています。クラスター発症を経験した他大学医学部は発症の対象が医師の卵だけに、マスメディアを通じて相当厳しい批判を受けていることは皆の知るところです。

さて、例年4月に4年次の成績優秀者トップ10を招待して開催しておりました FU-OMSA Reception Dinner もコロナ禍のため延期となっていました。同窓会の総会も中止としたため研究奨励賞の表彰もできないままでしたので、8月の理事会において研究奨励賞の表彰とトップ10人の表彰を福大メディカルホールにて取り行いました。3密にならないように注意マスクも着用で実現しています。

最後になりましたが、卒業までには10名の学生とコロナウイルス禍の生活を振り返り共に歓談できる日を実現させたいと願っています。



FU-OMSA

Fukuoka University - Outstanding Medical Student Award

2020.8.



烏帽子会会報第69号

発行日 2020年11月16日
発行人 高木 忠博
編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話:092-865-6353(直通)
092-801-1011(代表) 内線[3032]
FAX:092-865-9484
E-mail:eboshi@eboshikai.jp
maileboshi@gmail.com

印刷所 ロータリー印刷(株)
福岡市中央区港2-8-9
電話:092-711-7741
FAX:092-711-7901